

## 令和7年度 第77回 卒業式 校長式辞「誰かと共に」

心地よい春風とともに、今、卒業生のみなさんに、あたたかな光が差し込んでいます。この佳き日に、保護者の皆様、御来賓の皆様の御臨席を賜り、謹んでお礼申し上げます。保護者の皆様には、卒業という大きな節目を迎えられましたこと、どれほど喜ばしいことか、感慨もひとしおのことと存じます。心よりお慶びを申し上げます。

卒業生の皆さん、旅立ちの日です。この春の光の先に、たくさんの新しい出会いが待っています。

6年の歳月を振り返りますと、皆さんが歩んできた道のりは決して平坦ではありませんでした。6年前の春、世の中は未曾有の感染症拡大という混沌とした状況にありました。休校を余儀なくされ、友と語り、共に学ぶ、本来の教育が制限される日々が続きました。

戸惑いを抱えながらも、皆さんは歩みを止めることなく、互いを思いやり、協力し合い、確かな学びを積み重ねました。そこにあったのは、他者を思いやり、困難に向き合う強さを備えた皆さんの姿です。

6年前の入学式での最初の質問、覚えていますか。「みなさんにとって一番大切なことは何でしょう」という問いでした。今は、すぐに答えられますね。心に刻み続けてきました。そう、「命」です。命とは、生きるということ。生きるとは、心があるということ。今日は、みなさんの卒業にあたり、最後の課題をプレゼントします。宿題です。

最後の問い、「あなたは何のために生きていますか?」、あなたが生きる意味、人生の意味とは何か、生きる価値は何か。今年の思索コンテストのテーマ「これが私の生きる道」の続きです。制限時間はありません。その問いを持ち続けることが生きている証となります。

今、世界は混迷の度合いを極めています。六年前、感染症との戦いに世界が一つになり立ち向かいました。しかし、その後はどうでしょう。ロシアによるウクライナ侵攻しかり、アメリカとイスラエルによるイランへの軍事攻撃しかり、人類はなぜ過ちを犯すのでしょうか。

みなさんは、どんな理由があってもいじめは絶対に許されない、と教わってきました。いかなる理由もこじつけです。にもかかわらず、何らかの理由を付けて国が国を攻めることが認められるのでしょうか。

その答えを大人に任せてはいけません。大切なのは、みなさん自身が心の中で問い続け、それに対して考えを巡らせ、答えを見付けることです。自分の目で見て自分の心で感じてください。

あなたは何のために生きていますか？という問いから、話が飛躍したと感じたかも知れません。でも、お伝えしたいことは「命」です。

私たちは一人一人かけがえのない存在です。ありのままの自分にかけてがえのない価値があります。でも世の中を見渡すと、自分と違った考えの人を認めなかったり、何らかの優劣をつけて人を見下したり、障害のあるなしで差別をしたり、悲しい現実もあります。

自分よりも運動や音楽が得意な人、テストでいつも満点の人、ほめられることが多い人、それと自分を比べる意味があるでしょうか？ 人との関係を作るのが苦手な人、相手に誤解される言葉をついつい言ってしまう人、自分の思いを上手に表現できない人、ダメでしょうか？

みんな違ってみんないい。ありのままの自分でいいのです。みんな違っていいからこそ、自分とは違った生き方、違った考え方を教わることができます。すべての人の存在に感謝です。かけがえのない存在の神秘に感謝です。あなたの存在そのもののかけがえのなさは、何が起ころうとも、誰が何と言おうとも、揺らぐことはありません。

同じ様に、他の誰かも、かけがえのない存在であるという真理。この不透明で、混沌たる情勢の今だからこそ、自分自身、身近な周りの人々は勿論、これから出会うであろう誰かのために、或いは、直接は出会わないかもしれない誰かのために、誰かと共に生きるということに心を留めて、日々の歩みを進めてください。

四月から皆さんは、中学校という新たな学びの場へ進みます。未知の環境に踏み出す時、不安を覚えるでしょう。しかし皆さんは、この六年間、人と人とのつながりの尊さ、想像力を駆使して、主体的に思考・判断する習慣を大切にしてきました。自分を信じ、友を信じ、確かな志を胸に、自らの道を力強く歩んでください。いかなる時代にあっても、皆さんの歩みが希望と誇りに満ちたものでありますよう、心より祈念申し上げます。

今までありがとう。本当にありがとう。さようなら。

令和8年3月25日 昭島市立富士見丘小学校長 稲垣 達也